

# 林木ジーンバンク事業の対象及び進め方

## 目的と対象

### 主要樹種の育種素材の補完

(スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ、アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツ、リュウキュウマツ)

### 有用樹種の新需要の創出への貢献

(ケヤキ、ミズナラ、クヌギ、シラカンバ、イチイ、クロモジ、ホオノキ、キハダ等)

### 脆弱な希少遺伝資源の保全

(オガサワラグワ、ヤクタネゴヨウ、ヒメコマツ、ヤエガワカンバ等)

## ニーズ把握

顕在・潜在ニーズの収集・分析と優先度により遺伝資源の取り扱い方を類別

- ・多様な品種開発への対応
- ・潜在的な利用価値の掘り起こし
- ・絶滅リスクの把握

(育種事業、林業関係機関、異分野機関等との連携強化)

## 事業の進め方

### 「生物資源」\*の探索・収集

- ・品種開発に直結するもの
- ・新需要の創出に必要なもの
- ・緊急避難的保存が必要なもの

### 「情報」の探索・収集

- ・生息域外保存の必要性が小さいもの
- ・生態系内での保存に適したもの
- ・将来のための遺伝資源の保存

### 増殖・保存(生息域外保存)

- ・新規収集した生物資源の保存、林木育種アーカイブの構築
- ・高度な研究材料の創出
- ・微少な栄養体での長期保存

### 「情報」の分析・蓄積

- ・生息域内(集団内)での保存・動態情報
- ・地理的な分布域での保存情報
- ・必要時にアクセスできる情報

### 特性評価

- ・ニーズに沿った特性評価
- ・特性評価項目の検討、新たな特性評価技術の開発・導入
- ・保全に必要な技術の開発

### 事業成果の社会への還元(Gene Bank for Society)

- ・「生物資源」の配布
- ・「情報」、「技術」の提供
- ・事業成果の発信

遺伝資源情報のネットワーク化

\*「生物資源」: 成体、種子、花粉、DNAの総称